

“自然素材が持つ温かみを形にして届ける「上質な日常」”をコンセプトに、竹素材を中心とした天然素材のテーブルウェアやライフスタイルショップ向け商品提案や企画販売を行う。九州を中心に150の工場や工房・職人と提携し、卸先は約3,000社、アイテム数は7万点を超える。2019年8月にオープンしたANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパの客室とブティックのアイテムにも採用されている。

<企業プロフィール>

社名	株式会社山下工芸
創業	1975年
資本金	1,500万円
所在地	大分県別府市上人仲町13-43
代表者	代表取締役 山下 謙一郎
従業員数	20人 (2019年9月1日時点)
事業内容	ホテル・レストラン向けテーブルウェア、ライフスタイル向け企画

【経緯・背景等】

2005年から、放置竹林を資源として活用する「間伐材・放置竹林グリーンプロジェクト」を始動。プロジェクトの一環で生まれた竹箸製品5種類は2012年からエコマーク認定を受けている。環境配慮商品を選択することで消費者が社会的に貢献できる好事例として評価され、2015年にはエコマークアワード2015「銅賞」を受賞。

【具体的な取組】

社会福祉施設への作業委託

2006年から社会福祉法人「太陽の家」との協業をスタートし、製品の検品作業や梱包作業の一部を委託。障がい者の働く機会づくりとともに、ビジネスパートナーとして作業品質の向上をサポートしている。現在は大分県が「共同受注センター」を設置し、障がい福祉サービス事業所が共同で事業者等からの仕事を受注するしくみを通じて協業を行っている。

繰り返し使える天然素材製品の企画開発

竹の用途拡大にも積極的。ガラス質ポリマーを使ったコーティング技術により竹集成材の耐久性・撥水性を強化する加工や、独自開発した竹微粉炭（5ミクロンサイズ）を特殊塗料として器に使用。また、竹炭パウダー5ミクロンの食品添加物アイテムを企画するなど竹素材としての機能強化や新用途を提案。また、プラスチック製品のゴミを削減するため、「竹マドラーストロー」を開発し、竹資源の循環を推進している。

【取り組んだ成果】

材料、製造、梱包・発送、使用、廃棄の各プロセスにおいて、SDGsとの関連性を明確化し課題に向き合った結果、ビジネス活動の一環として環境や社会課題を解決することにつながり、社員の意識も変化。

また、SDGsを共通のゴールとして、新たな業界や国境を越えたコラボレーションによる企画開発が生まれ、特に外国の企業からの共感度は高く、ビジネスの拡大につながっている。

▼自然由来商品の開発 (炭塗布製品) 実用新案登録済



▼竹マドラーストローの開発

